

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>NPO 法人千葉・草原のこころファーム</p>
<p>事業名</p>	<p>生牧草、自分で収穫、エサやり体験 in 千葉市動物公園</p>
<p>目的・必要性</p>	<p>こころファームでは、自然、農業、そして動物との触れ合いが、現代社会の子どもたちの心の成長に欠かせないものと考え、母体の中央牧草センターが得意とする無農薬有機質露地栽培の生牧草を活用して、生牧草の収穫体験、動物への餌やり体験など、自然や農業の楽しさ、厳しさ、大切さを伝承していく「実体験活動」を、ネットワーク型自然体験学校としては日本一の実績がある「仮認定 NPO 法人 千葉自然学校」の協力をいただきながら、積極的に NPO 活動を行っております。このように中央牧草センターとこころファームが二人三脚の形で、社会が抱える課題の解決に向けて一丸となって取り組んでいます。</p>
<p>内容</p>	<p>対象は、四街道市及び近隣市町村の 40 名の小中学生です。四街道市民の方は最低 20 名を確保してまいります。集合解散場所は四街道駅として四街道市民の方が参加しやすい形で行います。20 名とした理由としましては、半分は千葉市の協力により成り立っている当事業の性質上、千葉市は千葉市動物公園というリソースを提供していただき、四街道市はコラボ四街道制度でご協力していただく相互扶助の形として、残り 20 名は千葉市民の方を中心とした構成がベストだと考えております。</p> <p>開催は、年 1 回 11 月 (予定) に行います。場所は、中央牧草センターが管理・保全している大日 2206-1 にある四街道市に残された数少ない広大な牧草地にて行います。</p> <p>概要としては、千葉市動物公園をはじめ、上野動物園や JRA 中央競馬、乗馬クラブといった全国の草食動物たちの健康食となる生牧草の収穫体験の場と、当日収穫した生牧草を千葉市動物公園のバックヤードから動物たちに給餌体験する場を子供たちに提供します。</p> <p>基本的な内容としては、大型トラクターで刈り取ったものを、コンテナに二人一組で詰め込み、それを全員でトラックに積み込みます。</p> <p>昼食時には、上空に広がる青い空と白い雲の下、あたり一面に広がる青々とした生牧草と、その青々とした良い香りをそよ風が運んでくる広大な牧草地の真ん中にて全員でお弁当を食べます。こうした自然の中での作業や、当日参加する新しい友達とのくつろぎの時間を、五感を使って感じてもらい、ゆったりとした気持ち、おおらかな気持ちを育み感情を豊かにしていきます。午後には、自分たちで詰め込んだ生牧草を千葉市動物公園に持ち込み、普段は入れないバックヤードからゾウなどの動物たちに直接与えます。</p> <p>昨年度採択をいただき、年 2 回の開催を計画していた内 1 回目を 6 月 28 日に実施しました結果、市政だよりで掲載していただいたことや四街道市大日小学校へチラシの配布をさせていただいたこともあり、四街道市民の方からの大変良い反響が多くありました。主役の子どもたちにとっては普段は経験できないことを実体験することができ、大興奮、大満足の様子でした。子どもの成長にとっても有意義なものであるということで、このイベントを継続して行って欲しいとのご意見を保護者の方からたくさんいただき、この事業の継続的な開催の必要性を強く感じました。</p> <p>年 2 回形式から年 1 回形式に変更する理由につきましては、年 2 回ではどうし</p>

	<p>ても全体の調整が追いつかず手薄になってしまう可能性が高いためです。実際に前年度は5月、11月に実施する予定でしたが、各方面の関係者との調整が難航したため予定が大幅に遅れ、1回目を6月28日に実施しました。なお、2回目は2016年2月13日に開催決定しております。このような理由から、年1回に絞ることで最高のパフォーマンスで運営が可能になりますので、結果的に利用者の方の満足度、安心感の向上が期待できると考えています。</p> <p>28年度の実施内容につきましては、基本的には前年度と同じ流れを想定していますが、2度目の利用者の方に対して、驚きと感動を提供することを目標として、今までとは違うコンテンツを盛り込んでいく計画です。来年度の目玉としては千葉県動物公園のふれあい動物の里がオープンした年にあたるため、子どもたちにとって楽しさが倍増する見通しです。なお、初めて参加される方、前回申し込みをしたが病気などでやむを得ず当日キャンセルとなってしまった方、定員に達して締め切った後にお申し込みいただいた方については、優先的に参加していただけるよう配慮してまいります。</p> <p>前年度に比べて郵送料が高くなっているのは、キャンセルなどがあった場合に余分に発生したため、余裕を見て40通に10通加えた50通として計算してあります。</p> <p>前年度に比べて外部講師謝礼が高くなっているのは、千葉自然学校側の派遣料金が改定されたため、前年度1回目となる6月28日実施の際にかかった実費に基づき追加させていただきました。</p> <p>前年度に比べて保険料が高くなっているのは、40名ですと傷害保険が児童のみとなり、関係者に適用されないため余裕を持って60名としてあります。また、あわせて事業の特性上、賠償保険も加入しておくことが強く望まれるため、前年度1回目となる6月28日実施の際にかかった実費に基づき追加させていただきました。</p> <p>前年度に比べて駐車料金が高くなっているのは、千葉県動物公園のリスタート構想に伴う料金改定が来年度4月より施行されるためです。なお、入園料は小中学生については無料となるため項目を削除いたしました。</p> <p>受付事務費につきましては、変更はありませんが、昨年度実施の時点ですでに削減している状況です。前提としましてはコラゴ四街道で採択していただく前に実施した1回目の開催時に発生してしまった費用をなるべく抑えた形で、申請させていただいております。</p> <p>対象外経費の積算根拠につきましては、四街道市に貢献することも大きな主旨の一つと考えておりますため、2回目より市内観光バス業者に依頼していますが、バス代は国道交通省による貸し切りバスの新運賃制度施行の影響で上がっておりますので、次年度においても妥当な金額だと考えております。</p> <p>燃料代につきましては、当日子どもたちが収穫した生牧草を千葉県動物公園へ持ち込む際のトラックの燃料代、また事故発生時の緊急用車両の並走なども行うための燃料費となります。</p> <p>昼食代につきましては、よつグルメ研究会様のご厚意により料金は少し安くし</p>
--	--

	<p>ていただきましたが、前回実施したアンケートで量を多くしてほしい意見が多かったため、予算通りの金額を次年度でも想定して、量を増やす、あるいは 1 品加えるなどの調整をお願いする予定です。</p> <p>WEB 制作費としましては、特設ページ http://c-bokuso.co.jp/event/chibazoo/ の更新作業が発生いたしますが、本来は 3 倍以上費用のかかるところを、できるだけ運営スタッフで行えるように調整し、コラボ四街道で採択していただく前に実施した 1 回目の開催時に発生してしまった費用を大幅に抑えた形での申請となっております。また、運用費としましては、開催前、開催後のパブリッシングを SNS などで行い、また、保護者から大変希望が多い当日の写真の撮影、および掲載作業なども込めております。</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	11 月	秋一番の生牧草を収穫体験してそのまま千葉市動物公園へ行き、普段は立ち入れないバックヤードからのエサやり体験を行います。
役割分担の想定	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント参加者の募集、申込書の受け付け、参加者の決定 ・ イベント参加者から参加料を徴収する場合の参加料徴収事務 ・ 圃場におけるイベントの実施に関する対応 	
	<p>(市の役割)</p> <p>市の広報媒体を用いた事業の広報 市内小・中学校へのチラシ配布等のアドバイス</p>	
他団体との連携	<p>千葉市動物公園 (千葉市)</p> <p>開園 30 周年を迎えた千葉市動物公園に、普通では立ち入ることのできないバックヤードからの給餌体験の場や、当日、動物飼育のプロフェッショナルである飼育係の方から直接、動物に関する専門的な知識を教えてもらえる場などを提供してもらいます。</p> <p>仮認定 NPO 法人千葉自然学校 (千葉市、千葉県全域)</p> <p>参加者の安全を確保するために、ネットワーク型自然体験学校としては日本一の実績がある、千葉自然学校の専門スタッフを派遣してもらいます。なお、専門スタッフは子どもたちの指導を行うにあたり、研修プログラムを受け研鑽を積んだ者になります。子どもたちに 1 日楽しく参加してもらうためのノウハウや、万一発生した事故対応などにも迅速に対応できる知見があるため、まだ開催回数のない当事業においては、現時点では安全、かつ安定した運営に必要な不可欠な存在だと考えています。あわせて次年度以降徐々に千葉自然学校リーダーから市内の社会教育団体などボランティアスタッフの方々へ、依頼の割合を移行していく計画ですので、より地域に密着した連携が期待できます。</p> <p>よつグルメ研究会 (四街道市)</p> <p>お昼に昼食メニューを提供してもらいます。よつグルメ研究会さんによる、四街道の食材だけを使った、四街道にちなんだ美味しい食事を参加者に食べてもらうことで、四街道市のアピールにつなげます。</p> <p>中央牧草センター (四街道市)</p> <p>千葉市動物公園はもとより上野動物園や JRA 中央競馬などへも長年の間納品実績のある中央牧草センターが毎日休まず生産、供給している生牧草の収穫体験をするため、四街道市の圃場、体験コンテンツの提供をしてもらいます。生</p>	

様式第 2 号 (第 7 条)

	<p>牧草は、日本酪農発祥地である千葉県の中でも、四街道市、千葉市、佐倉市、市原市が発祥の 1972 年から栽培が続く農産物です。農林水産省による地理的表示制度にて申請を受理されています。概ね 25 年以上の栽培実績、実態がないものは受理されることもない中で受理され、現在は公示および審議中となっています。また、佐渡市長ともご面談をいただき、市として全面的にバックアップしていただける運びとなっております。こうした理由から四街道市にとっての新たな（改めての）特産物としての位置づけを確立しつつある生牧草を用いたイベントということで、市の農業や商業の PR 活動に十分お役に立てるものと考えております。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>このような、自然、農業、そして動物との触れ合いを通して、それらの厳しさ、大切さを伝承していく「実体験活動」によって、子どもたちの自立心、道徳心、集団生活を通して協調性、独創性や創造性が育まれることが期待されます。</p>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。